

キャンパス通信 ippeki



- 01 学長挨拶/  
多世代の人々とつながろう
- 02 特集1/  
活気あふれるキャンパスが戻ってきました!!
- 03 本学はDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進し、  
デジタル技術を活用した教育を実践しています
- 05 特集2/  
2022年度は「人道について考える」を  
テーマに企画展や公開講座を開催しています
- 07 大学院
- 08 教員紹介
- 09 地域の人々・高校生とつながろう
- 10 ひとりを見る目、その目を世界へ

第23号  
2022.4▶2022.9

企画展「みんなで人道について考える」開催 5月14日(土)

イベント内容については、p5-6をご覧ください。



ひとりを見る目、その目を世界へ



日本赤十字九州国際看護大学

Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing & Graduate School

## 多世代の人々とつながろう

ウイルスとの戦いは収束をみせていませんが、そのような中でも、私たちは感染予防行動を習慣化し、制約のある中で安全に生活を充実するための知恵や行いを身に付けてきました。一つの良い例が、サークル活動の再開です。自主的な活動を安全・安心を担保して再開するために、多くのエネルギーを費やしたと思います。サークルの目的や意義を見つめなおし、メンバーのやる気と絆を確かめ、新たなメンバーの参加を得ることは大変だったと思いますが、メンバー間の絆はさらに深まったと思います。5月以降、キャンパスにこだまする和太鼓やドラムのリズムは心に響き、気持ちを晴れ晴れとしてくれます。体育館では、バレー、バトミントン、弓道など気合の入った声と身体が躍動しています。どうぞ熱中症にならずに活動を継続してください。

仲間との絆の深まりだけでなく、地域社会の人々とのつながりが広がっています。5月の赤十字運動月間には、「みんなで人道について考える すべての人々に尊厳を 人道の実現のために最善をつくそう」というテーマをもとに、企画展を開催し、地域の人々とともに人道について考える機会を持つことができました。写真やレポートを解説する学生の言葉に、熱心に耳を傾ける小学生の姿がありました。また、5月末には、大島において水害対応訓練に学生、教員が参加し、島民の皆様、福岡海上保安部、福岡県警察本部、陸上自衛隊などの関係機関の皆様とともに、地域防災力の強化に努めました。多世代、多様な機関の方々との連携・協力を抜きには、かけがえのない命と尊厳を守ることはできないという現実と意義を感じた一日であったと思います。

危機の時代に未来を描くことが難しい日々ですが、私たちは一人でないことを忘れず、周りの人々とつながる機会を得ることで、心と身体のエネルギーチャージを高めていくことができます。心身のエネルギー交換がすすむと前向きな気持ちや未来を見通す力が備わることが研究データでも示されています。

学長 小松 浩子

(本学ホームページ「学長室便り No.1」にも同様の記事を掲載しています)



## 「Welcome to 学長室」



学長は授業や実習で直接皆さんに接する機会はあまりありませんが、皆さんの学びと充実した学生生活をより豊かなものにできるよう大学のかじ取りや環境づくりをしています。

学生にとって、より実りある学びや学生生活ができるよう、直接学生の声をお聞きし、ともにアイデアを出す機会を持つために、月に1度、学長室を開放しています。

話題は、どのようなことでもOKです。皆さんのお越しを心よりお待ちしております。



ある日のWelcome to 学長室のひとコマです。

この日、学長室を訪れた2年生の学生は、宗像市との共同事業「大学生の力によるまちの課題解決プロジェクト」において、“Let's 防災教室 島民の方々と日赤生がつながる! in地島”をテーマに地島での防災教室を実施し、その結果を研究する取り組みを行っています。

これまでの活動内容を報告し、小松学長からの質問にもお手製マップを使って、一生懸命説明し、ともにこれからの活動の広がりについて楽しく語ることができました。

(撮影協力:学部2年 村田史佳さん、土居祥子さん)

特集1

# 活気あふれるキャンパスが戻ってきました！！

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う課外活動制限が長引き、一時は全サークルが存続の危機に陥りました。そこで、2021年度後期から当時の2年生を中心に自治会執行部を立ち上げ、運営の見直しを行いながら徐々に活動を再開してきました。

今年度は、新入生に積極的にサークルに入ってもらい、楽しい学生生活を送ってもらえるように、サークル紹介のイベントを実施しました。大学生活に期待あふれる新入生と、自分たちの活動を目一杯アピールする学生たちのエネルギーでキャンパス中が活気に溢れています。

## 4月 サークル紹介が始まりました

青空とつつじ、やさしい春の風が吹いているキャンパスで、沖縄伝統の踊りエイサーを『ゆいまーるのわ』が披露しました。

## 5月 サークル紹介と先生・学生の交流イベント

自治会イベントとして、サークル紹介と先生方との交流を目的としたスタンプラリー「サークルと先生を探せ!」を行いました。サークルを周りながら先生に声をかけて、スタンプを集めます。多くの先生やサークルの先輩と交流することができました。

## 5月 バレーボールサークル「牛蛙の会」が大会に出場

惜しくも負けてしまいましたが、元気枠として出場し最後まで戦い抜きました。チームの盛り上がりは1番でした!

## 5月 学生奉仕団によるボランティア活動

学生奉仕団が、5月4日に開催された博多どんたく港まつりに参加しました。博多どんたく港まつりパレードに参加し、献血促進活動を通して、他大学の参加者との交流も生まれました。



## 課外活動も再開：看護師として学びを深め、倫理観を高めるための解剖実習見学！

2年ぶりに久留米大学医学部の解剖実習見学に参加しました!本学は2年次に課外活動の1つとして久留米大学医学部の協力のもと、医学部の解剖学実習見学に参加しています。実際のご献体に触れることで1年次に学んだ人体の構造と機能の学びを深め、2年次から本格化する専門科目の学修に活かしています!解剖実習を終えた、2年生の感想をご紹介します。

実際に臓器を目で見たことや臓器の重さ、硬さなどの感触を知って教科書だけでは分からなかった臓器の構造をより詳しく理解することができました。右気管支は左気管支よりも太く分岐角度が小さいため誤嚥しやすいことは実際に気管支の構造を目で見たことで誤嚥の危険性を理解でき、援助をする際は注意して観察しなければならないと感ずることができました。今回の貴重な機会に感謝してこれからの学習に活かしていきます。

(学部2年 豊永真央)

久留米大学で、初めてご献体を見ての学習でした。私が見学させていただいたご献体は60代の男性でした。実際に臓器を見て、触らせていただいた時に教科書で見たものや想像していたものと形や感触など一致した所もありましたが異なる所も多く、人体の構造についてより興味を持つことが出来ました。このような貴重な機会に参加することが出来たので学んだこと、感じたことをこれからの看護に活かしていきたいと思います。

(学部2年 山本ひなた)

解剖実習を見学し、それぞれ個人差があることが印象に残った。年齢や体格によって心臓の大きさや脂肪の量などが異なり、座学だけではわからない実際を知ることができた。また、大動脈弓は思っていたより太く、弾力があって驚いた。心臓の拡張期にも血液を送り出せるのは、この弾力があるからだ納得できた。私たちの学びのために献体くださった方々やご家族に感謝し、今回の経験を疾病の理解や看護に繋げていきたい。

(学部2年 黒崎名花)

実際に臓器や器官などを目で見て感じ、人間の構造の繊細さを知るとも貴重な体験ができた。一つの無駄もない人間の構造は、少しでも不備があればすぐにここが問題と示すことが出来るくらい、神経や筋肉、血管などが密接に関わって働いていることを改めて理解できた。普段、教科書や講義だけでは学べない人体の仕組みを知るいい機会となり、この学びを今後の勉学に活かしていきたい。

(学部2年 渡橋珠希)

# 本学はDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進し、デジタル技術を活用した教育を実践しています

## 電子教科書

2022年度入学生からテキストを全て電子教科書に変更しました。電子化に伴う学生の声をご紹介します。

私の高校は3年生の春からiPadが導入され、iPadを活用した授業が行われていました。そのため、大学での電子教科書を活用した授業にすんなりと慣れることができました。電子教科書は、オフラインで閲覧可能なため、移動中のバスや電車など、場所や時間にとらわれずに学習に取り組みます。特に、看護技術の教科書には映像資料が載っており、演習前後の予習と復習に活用し、日々学びを深めています。(学部1年 蔵本 綾乃)

電子教科書のメリットは、大きく分けて2つありました。1つ目は、通学が楽ということです。これまで厚く多い教科書を学校に持ち運ばなければいけなかったと聞いていましたが、私たちはタブレットだけを持ってくればいいのでとても楽です。2つ目は勉強のしやすさです。タブレットにレジュメがくるのでそのまま書くことができ、間違えても何度も書き直すことができるのでとても使いやすいです。(学部1年 松岡 心都)

私は高校生の時、紙の教科書を使っていました。大学生になり、電子教科書を使うことによってたくさんの教科書を持ち運ぶ必要が無くなり、荷物がすごく軽くなりました。また、目次のページを押すことですぐに開きたいページが開けるところが魅力的だと思います。電子教科書が導入されて本当によかったです!(学部1年 上重 歩優)



電子教科書は持ち運びが簡単です。すべての教科書が一つのタブレットに収まっており、荷物を大幅に減らすことができます。電車やバスの中でもすぐに勉強することができます。小さな文字や資料は自分の見やすい大きさに拡大することができます。動画の再生ができる機能もあり、学習をより分かりやすく、より定着させることができます。また、一度書き込んだことを取り消すことも容易にでき、何度も繰り返し書き込むことができます。(学部1年 安田 千鶴)

## 高機能シミュレーター

本学は高機能シミュレーターを導入し、既存の電子カルテシステムと連携されることで、臨床現場に近い患者を作り出し、臨場感のある学内演習を実践しています。今回はクリティカル看護の演習についてご紹介します。

私たちが関わる対象者の多くは、何かしらの健康問題を抱えながら生活をしている人です。その健康問題を理解するためには、さまざまな観察スキルの獲得することが求められます。

学内ではその観察スキルを獲得するために、学生同士で練習を重ねます。しかし、学生同士では「正常ではない状態」を表現することに限界があります。そこで登場するのが、高機能シミュレーターです。正常ではない音を聞き分ける練習をするためには音源を使ったり、音の聞き分けに特化したモデル人形を使用したりする方法もあります。では、なぜ「高機能シミュレーター」でないといけないのでしょうか。

一番の理由は「再現性」だと考えています。臨床での経験の少ない看護学生が、文字情報で想定された患者の状態を正しく想像し理解することは非常に難易度の高い課題です。モデル人形などでは表現できる内容や範囲が限定されているため、目の前にある情報から対象者の全体像を捉えることは非常に難しいです。高機能シミュレーターは一つの情報に限定せず対象者のさまざまな状態を表現することができるため、臨床に近い状態にある対象者の状態を観察するためのスキルを獲得することが可能となると考えます。特に、クリティカルケア看護の対象となる患者の多くは、自身の状態を言語的に発することが困難な方が多くいます。その対象者のさまざまな状況を判断し、生命を守り生活を支えるためには、観察スキルを獲得し、得られた情報から対象者の状態を判断する能力を獲得することが必須となります。また、「反復性」もシミュレーターを使用することのメリットの一つです。手技を獲得し、知識と統合していく訓練は繰り返し行うことが必要ですが、臨地実習の機会是非常に限られています。高機能シミュレーターであれば、何度失敗しても、どれだけ時間をかけても、繰り返しの練習が可能となります。また、対象者の状況を変更することも容易にできるため、単に手技を獲得するだけでなく、観察した結果をどのように評価し、その後の看護に活かしていくかを考えるための訓練も可能となります。

## 実際に演習で高機能シミュレーターを使用した学生のご紹介します

クリティカルⅡの高機能シミュレーターを用いた演習では、グループメンバーと事例の対象へ適切な看護介入をするには、どのような患者情報が必要なのか、何を実施すればその内容の情報を得ることができるのかを話し合い実践することで情報収集をした。その中で、効率よく情報を得る方法や情報収集する順番、本当に必要な情報は何かをより実践に近い形で学ぶことができた。また、実際に実施したことで、その場の状況などのイメージを持ちやすく、個別性を持った看護介入を深く考えることができた。

実習では、演習で学んだ情報収集の仕方や順序などを活かしていきたいと思う。(学部3年 今泉 伽樹葉)

高機能シミュレーターは「実際の人体」ではなく、「機械による人体」により看護演習において実際の人体に近い機械に試行錯誤を加えることが可能である。学びの過程において学生の考えを看護実践として人体に実施することができ、機械であるからこそ、何度も実施内容を修正しながら演習が行える。つまり、高機能シミュレーターは試行錯誤しながら学生自身が主体的に学べる機会を可能とした、より実践に近い経験ができるものである。

(学部3年 榎本 咲優)



人工呼吸器の設定をモニターで確認でき、異常値の設定などをするとアラームがなり異常であることを知らせてくれるのでどこが異常なのか、何が異常なのかをアセスメントしながら考えやすく、異常な肺音を設定して正常時と聞き比べる事でどの音が異常なのかを聞き分けることができました。実習では捻髪音や水疱音などを聞き分け、モニターやフィジカルの異常を見逃さないように活かしていきたいと思います。

(学部3年 小嶋 華月)

座学での講義でモニターの見方や、意識レベルの判断などを理解していましたが、実際に高機能シミュレーターを用いて行ってみると、肺音や心音を聞いたり身体に繋がっている管が最終的にどこにいきついているのかを考えたりすることが難しいと感じました。実習前に実際に高機能シミュレーターを用いて演習したことで、クリティカルな状況下における観察するポイントや留意点を実践的に学べたので、今回の演習で学んだことを生かしてアセスメントや看護計画を展開していきたいと考えました。

(学部3年 橋元 愛海)

今までは文章で患者の情報が提示されるだけだったため、患者のイメージが湧きにくかったのですが、高機能シミュレーターでは限りなく現場に近い環境で、リアルタイムで動きのある情報を収集することができ、良い経験になりました。いざ、患者さん(シミュレーター)を前にすると、どこに着目すれば求めている情報を得られるかが、不安になったり戸惑うこともあったのが課題だと気がきました。ただ情報をメモするのではなく、なぜ情報が欲しいのかの根拠、情報を得るまでの手順を明確にできるように、振り返りをして実習に行きたいと思います。

(学部3年 廣瀬 美海)

学生同士で患者役をしあったり、先生の名演技から情報を取ったり、看護学生の演習には様々な工夫がされています。しかし、そこにはどうしても限界があり、特に異常を見抜く力をつけるのに大きな課題がありました。それを可能にしたのがとてもリアルな人型のシミュレーターです。忠実に患者さんを再現してくれ、心音や呼吸音を聞くにはどの位置を聴診すべきなのか、どれが異常音なのか演習を通して学ぶことが出来ました。

この環境に感謝し、有効活用しながら、技術を身につけていきたいと思います。

(学部3年 焼山 天音)

## 今後の展望

高機能シミュレーターや電子カルテシステムの他に、本学はMRゴーグルを保有しています。

現在MRゴーグルを学内演習や講義で活用できるよう、プログラムの開発に着手しています。将来的には、MRゴーグルを活用し、医療の高度化が進む臨床現場に対応できるよう、様々な学内演習や講義などで活用し、質の高い看護師養成教育を実践していきます。

## MR(複合現実)とは

“MR: Mixed Reality(複合現実)”は一見ARに似ていますが、現実世界の形状(部屋の形やテーブルの位置)などをデバイスが把握し、それらにデジタル映像をびったりと重ね合わせることができます。

さらに利用者の動きにシンクロさせることができるため、“部屋の中央に表示させたホログラムを、部屋を歩き回りながら確認する”といったことが可能になるのです。

引用: <https://special.nikkeibp.co.jp/atclh/NBO/17/microsoft0419/a1/>





特集2

# 2022年度は「人道について」 企画展や公開講座

5月8日は世界赤十字デーであり、日本赤十字社はその「世界赤十字デー」がある5月2022年2月に始まったウクライナの人道危機は深刻な状況にあり、世界中から支援  
本学では、学生・教職員一人ひとりが、TV等を通して映像でみる世界のあるいは国  
とは何かを問い、「人道」について深く考える機会を創出することで、赤十字へのさらなる

## 「赤十字」運動月間について＋C◇

5月1日は日本赤十字社の創設日(創設者 佐野恒民・佐賀県出身)、5月8日は赤十字の創始者であるアンリー・デュナンの誕生日にちなみ「世界赤十字デー」と定められています。日本赤十字社は、このような歴史的な日のある**毎年5月を「赤十字運動月間」と**しています。

### 「みんなで人道について考える」企画展を開催しました

5月の赤十字運動月間に「みんなで人道について考える すべての人々に尊厳を 人道の実現のために最善をつくそう」というテーマのもとに、オーヴァルホールで企画展を開催しました。本学の学生・教職員だけでなく、地域の方々や高校生にも参加いただきました。

会場を訪れた人々に紛争の現状(過去から現在)と被害の実態、赤十字の活動を理解できるよう、映像や写真、世界の紛争状況を示した地図を閲覧するスペースを設けました。次に赤十字の理念である「人道」への理解を深めるために、1年生が赤十字科目で取り組んだ「人道」をテーマにした学習成果の掲示、さらに、戦争の時だけではなく、普段から私たちが知っておくべき国際人道法についての学習成果を掲示しました。「人道」とは何かについて考える機会になるよう、赤十字や国際人道法を知らない人でも理解できるよう工夫しました。また、5月12日は「看護の日」でもあり、赤十字の看護師が戦時中に着用した救護服(現在は公式の場で着用する礼服)と救護服を展示し、赤十字の看護師の歴史や活動を紹介するコーナーも設置しました。出口付近には参加された方の思いを綴るtwitterコーナー、ウクライナ人道支援への募金コーナーを設置し、多くの方に協力をいただき、日本赤十字社福岡県支部を通して日本赤十字社にお渡ししました。

期間中、学内外の多くの方に参加いただきました。参加された地域の皆様は資料をじっくりと閲覧され、質問をいただいたり、中にはご自身の人道についての考えを話して下さることもありました。ウクライナの紛争が日々激しさを増す中、改めて人道とはなにか、これからの私たちにできることは何かを考えなくてはなりません。私たちは、地域の方々も含め若い世代から発信していくことで、少しずつでも苦しむ人が減る世界に近づけたいと考えます。そのためには、まず知ることが大切です。今回の赤十字運動月間の取り組みが、そのきっかけになることを願います。

### 2022年度国際フォーラムを開催しました

今年度は、5月は赤十字運動月間に合わせて、『「赤十字と国際人道法」から平和を考える』をテーマに、赤十字国際委員会(ICRC)駐日代表 レジス・サビオ氏を講師にお招きし、5月26日オンラインで開催しました。

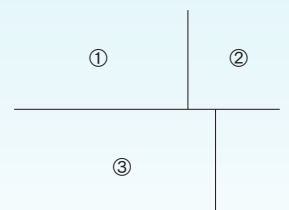
当日は、本学の学生、教職員のほか、日本赤十字社本社国際部、日本赤十字社佐賀県支部、日本赤十字社長崎県支部、日本赤十字看護大学、日本赤十字広島看護大学、福岡赤十字病院、日本赤十字社長崎原爆病院、日本赤十字社長崎原爆諫早病院、熊本赤十字病院からもご参加いただきました。

今回のフォーラムを通じて、ウクライナの人道危機を始めとする様々な国・地域で起こっている人道危機の現状を知り、国際人道法の守護者と言われている赤十字国際委員会の活動及び国際人道を通して平和を考える機会となりました。特に、講演の中でウクライナの人道危機の陰に隠れてしまっている、世界中で起こっている他の人道危機にも目を向ける必要性を示唆していただいたことは、より広い視野での「平和」を考えるきっかけを頂くことができました。オンラインライブではありませんでしたが、ICRC駐日代表であるレジス氏の話を通じて直接聞く機会を得ることができたことは、感銘を受けることが多くあり、赤十字の活動を再確認すると共に、赤十字職員としての意識を向上させることができた講演であったと言えます。

# 「考える」をテーマに を開催しています

を赤十字運動月間とし、赤十字への理解と協力を求める活動を行っています。  
の手が差し伸べられ、また、国内においても自然災害が多発しています。  
内のどこかの人道危機という捉え方で終わるのではなく、赤十字の一員として、「人道」  
理解を深め、赤十字運動につなげるとともに自校教育につなげたいと考えます。

## 企画展の様子



- ①小学生向けに紙芝居を使って、赤十字について説明をする国際看護コースの学生
- ②赤十字国際委員会からお借りしたポスターや写真を展示
- ③学生が作成した展示物の一部世界で起きている紛争の状況を分かりやすく地図で表しました。

## 地域の方にもご覧いただける“赤十字コーナー”の整備を検討しています



本学の図書館は、地域の方々にもご利用いただける施設となっています。また、図書館の向かいにあるゲート棟1階は、西鉄バスを利用される方が、バスを待つためにお立ち寄りになられます。こうしたスペースを活用し、赤十字の「人道」の理念(大学の理念)の啓発活動の場として、「赤十字コーナー」の整備を進めています。

赤十字コーナーには、赤十字関連図書や救護服・式服等を展示して、一般の方々に赤十字について関心をもってもらえるような内容にしたいと考えており、今年中の完成に向けて整備を進めています。



## 2023年度 履修証明プログラムを開講します

履修証明プログラムは、社会人等を対象として、体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラムです。本学では、看護職の方々にニーズ調査を行い、看護研究プログラムを開講することにいたしました。プログラムは、大学院科目の研究方法（研究方法総論）、研究方法A-II（量的研究方法）、研究方法B-I（質的研究方法の基礎）で構成し、大学院生との合同授業となります。受講・試験合格により単位が付与されるとともに履修証明書が発行されます。さらに、大学院入学時には履修単位として認められます。履修対象者は、大学院への入学条件と同様ですが、大学を卒業していなくても資格出願審査を受け、条件（高等学校卒業、看護系短大・専門学校等を卒業した看護師、看護師経験5年以上）が満たされれば入学が許可されます。以下、科目の概要をご紹介します。

### \*研究方法（研究方法総論）

看護・保健領域における研究方法の基本概念及び考え方、実践における研究活動に必要な能力を修得することを目的としている科目です。研究とは、文献の読み方と研究への活用方法、量的研究とは何か、質的研究とは何かについて概要を学びます。

### \*研究方法A-II（量的研究方法）

調査研究における質問票の作成、調査の実施、回収した質問票の扱い方、分析の手法を実践を通して修得します。

### \*研究方法B-I（質的研究方法の基礎）

質的研究手法を用いるための基礎知識として、質的データの収集方法および分析方法、さらに分析結果の解釈等について、文献や模擬データによる演習を行います。

大学院進学への第一歩、あるいは臨床における研究能力の向上に貢献できることを願っています。詳細はホームページをご覧ください。

研究科長 姫野 稔子

## 私の目指す助産師像の実現に向けて

私は、現在、本学大学院の上田奨学金を受給しながら、勉学に励み助産師になることを目指しています。奨学金を利用したきっかけは、私の妹が薬学部へ進学し、県外で一人暮らしを始めたことです。私が大学院への進学をすることによって両親への金銭的な負担がかなり増えるため、大学院（助産コース）への進学を迷い、助産師への道を諦めそうになりました。しかし、私は、妊産褥婦やその家族が何か相談したい時に顔が浮かぶような信頼される助産師になるという夢がありました。また、夢の実現のためには、大学院で質の高い助産学に関する教育を受け、研究について学ぶ必要があります。そのため、大学院への進学を決意し、入学後に両親の経済的な負担を減らすために奨学金を受給することを決めました。今後、奨学金は主に助産学実習での宿泊・生活費や教材費などに充てようと考えております。

大学院での学びは、大変に感じることも多いですが、本奨学金の制度に感謝し、理想の助産師像の実現に向けて助産学を学び続け、性暴力の予防教育に関する研究に専念していきたいです。



上田奨学会理事長 上田康蔵 様から奨学生証を授与  
(7月5日(火) 研究発表会終了後)

大学院修士課程助産コース 1年 穂山 菜々

## CNSコース在宅看護学領域に入学のきっかけ

今春から、CNSコース在宅看護学領域の社会人学生として新たな生活を始めました。私は、急性期病院の看護師として、様々な患者様と出会ってきました。その中で、ふと考えたことは、一人一人の人生に触れるこの仕事が、少しでもその方々にとって温かなものとなり、ささやかでも幸福を感じたり、見出せるように支援できるものでありたいということでした。その後、その人らしく住み慣れた地域で療養生活を送れるように支援したいという思いが訪問看護師として働くきっかけとなりました。訪問看護では、医療と連携を図りながら住み慣れた地域で生き生きと過ごされる方々と出会う一方で多くの課題を抱え療養生活を送られている方々もいます。これらは在宅看護の専門的な臨床判断や柔軟な実践力などで解決できることも少なくありません。そのため在宅看護の実践能力や専門性をさらに高め、各領域を超えた支援が育まれるようにとの志をもち、現在学びを深めています。

大学院修士課程CNSコース 在宅看護学 1年 佐藤 歩美





教員紹介

# 今年度、5名の教員が新たに着任しました。 今回は、2名の教員をご紹介します！

さくらもと ひで あき  
クリティカルケア・災害看護 教授 **櫻本 秀明**先生

インタビュー

**Q** 先生のご専門分野について教えてください。

**A** クリティカルケアという聞きなれない分野が専門です。簡単にいうと、集中治療室や救急救命センターなどで治療をうける重症な患者さんの看護をおこなうことを専門としています。命の危機にある患者さんやご家族の回復を支え、より早く日常生活に戻っていただけるよう看護をしています。重症な患者さんは、治療が終わった後も、合併症に苦しむことが多くあります。そうした長期的な合併症が起きないように集中治療室で予防したり、不幸にも合併症が発症してしまった方の回復が早まるように支援しています。

**Q** 本学へ来られて、大学・学生の印象はどのようなものですか。

**A** 人の成長は出会いと、環境に大きく左右されると私は考えています。本学は平和を体現したような、のどかな丘の上に建てられています。周囲の多くは緑に囲まれ、ゆったりとした時が流れています。こうした環境だからでしょうか。学生や教員も、おおらかで、実直な方が多いように思います。この素晴らしい場所で、思索に耽ることはとても幸せだと感じていますし、この場所での新たな出会いは私を成長させてくれるものと思います。

**Q** 学生に期待することは何でしょうか。

**A** 幸せであってほしいと願います。困難に立ち向かう赤十字の看護師であればこそ、です。まず、自分が健康であり、幸せであることが看護をするうえで重要なことであると考えているからです。

私は、本学に赴任し、「人間の生命は尊重されなければならないし、苦しんでいる者は、敵味方の別なく救われなければならない」という「人道」こそが赤十字の基本であるということをお勉強しています。この救いの恵みを分け与えられる人間という枠の中には、あなたも、わたしも入っているのではないかと思います。尊重され、苦しみから救われることで、あなたが幸せになれば、世界にまた1人幸せな人が増えたことになります。きっと、誰かに手を差し伸べ、救いを分け与える力も湧いてくることでしょう。



櫻本先生の略歴

- 2003年 山梨県立看護大学看護学部卒業後、  
聖路加国際病院 救命救急センター 勤務。
- 2010年 聖路加看護大学大学院 成人看護学 急性期専攻修了し、  
筑波大学附属病院 ICU 勤務
- 2014年 筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻  
麻酔・蘇生分野専攻 修了
- 2015年 筑波大学附属病院 集中治療室/救急外来 主任副看護師長
- 2018年 茨城キリスト教大学 看護学部 准教授
- 2022年 日本赤十字九州国際看護大学 クリティカルケア・災害領域 教授 現在に至る

かわ さき みき こ  
成育看護 准教授 **川崎 幹子**先生

インタビュー

**Q** 先生のご専門分野について教えてください。

**A** 小児看護学を専門としています。看護は病気の子どもだけでなく、健康な子どもたち、その家族も対象にしていきます。私生活では、出産・育児・家庭生活との両立をした経験から、リアリティを持って伝えることを大切に、学生さんの指導においても、母親のように、関わることを心掛けています。研究では、働く親や妊産婦さん、同じ職種の看護師さんを対象に、より良い職場改善のために、取り組んでいます。働く女性へのアプローチでは、子育て世代に大きく貢献したいと考えています。また災害ボランティアとしても活動しています。阪神淡路大震災をはじめ中越地震、長野・熊本の地震や水害など、災害の規模に関わらず参加し、自身の心理学の知識を活かして被災者の心のケアなどに当たっています。

**Q** 勉強や研究に行き詰った時のリフレッシュ方法はありますか。

**A** 保護犬活動もしています。里親になり、現在4匹の犬が家族になっています。子どもと犬と近くの公園で遊ぶ時に、エネルギーをもらっています。

**Q** これからトライしてみたいことはありますか。

**A** トライしたいことは、2つあります。子どものために住みやすい未来を創ること。まずは、子ども食堂を多くの場所に創設すること。虐待で苦しむ子どもやその家族を助けたいと考えています。



2つ目は、ファシリテッドッグ・ハンドラーとなることです。闘病中の子どもたちの不安を和らげ、治療を支える看護師として、ファシリテッドッグと一緒に、活躍したいと思っています。  
「少しでも地域に貢献したい。私が頑張ることで誰かが救われたら本望です」

※ファシリテッドッグは、病院で活動するために専門的に育成された犬のことです。ハンドラーと呼ばれる、犬をあつかう研修を受けた臨床経験のある看護師とともに、入院患者の治療や療養生活に関わります。

川崎先生の略歴

看護師となり、手術室に勤務。間もなく、阪神淡路大震災が起こり、災害支援へ。急性期を過ぎると心のケアの必要性を感じ、大学院で臨床心理学を学ぶ。小児科に勤務中は、入院している子どもの遊びや、家族の話を聞くことの大切さを実感。後輩に、看護の想いを繋げたく、看護教員となりました。現在、教員14年目です。

# 地域の人々・高校生とつながろう

新型コロナウイルス感染症の影響を受けてから、3年目に入りました。2020・2021年度は、対面での公開講座や、オープンキャンパスをほとんど実施することができない状況が続きました。今年度は、感染対策を徹底したうえで、本学にお越しいただき、地域のみなさまと交流することができました。

## 高校生キャンパス体験プログラムを開催!

「看護と赤十字について知ろう」をテーマに、6月18日(土)に県内外の高校生 25名が本学キャンパスを訪れました。ボランティアの看護学生とともに、講義や大学内のツアー、そして看護技術として傷の手当ての体験をしました。ボランティアの看護学生に指導を受けながら、真剣に取り組んでいました。看護師とはどんな職業なのか、また国内外で活動する赤十字について知る機会にもなりました。

看護技術体験  
感染対策としてフェイスシールドを着用



## オープンキャンパスを実施!

2年ぶりに対面でのオープンキャンパスを、7月16日(土)に実施しました。

第1部(午前の部)と第2部(午後の部)に事前申し込んでいた高校生・付き添い者の方々が100名以上来場しました。

主なプログラムは、学長からの挨拶、学部長からの大学紹介、在学生との座談会、体験授業、キャンパスツアー、入試・奨学金説明、個別相談会でした。

第2部では、Zoomでオンライン配信するWebオープンキャンパスも同時開催しました。

体験授業(「高機能シミュレーターを用いた看護演習」または「新生児に対する看護ケアの実施演習」)では、講義の後に高校生たちが実際にそれぞれの実習を体験する機会もありました。



オーヴァルホールでの大学紹介の様子



赤ちゃん人形で沐浴実習

## 公開講座の開催!

地域連携・教育センターでは、今年度、「クロスカレッジ2022 地域に広げる『防災・減災』~いのちと健康を守る~」をテーマに4回の公開講座を開催しています。

### 第1回 災害に備えよう ~赤十字防災セミナー

開催日 ▶ 2022年6月21日(火)

「災害の備え」について、日本赤十字社福岡県支部から講師を招き、自身の赤十字救護体験を交えながら講演いただきました。

また災害時に日本赤十字社から配布される日常生活用品・安眠セット等の展示とともに、ウクライナの人道危機に関連した展示物をご覧いただき、災害及び人道について考えていただく機会になりました。



オーヴァルホール研修室での講義の様子

### 第2回 地域で取り組む防災・減災

~高齢者の特性を理解して~

開催日 ▶ 2022年7月26日(火)

台風や豪雨災害時に、高齢者と同居する家族がどのようなタイミングでどこに避難するのかを考えるため模擬家族を作り、グループワークを行いました。

グループの中で1名がお年寄り体験スーツ(想定年齢80歳以上)を着用し、高齢者に起こる身体の変化を体感しながら実際に様々な生活動作を体験してもらいました。



お年寄りスーツを着用し、模擬家族を構成  
学生ボランティアは、大学生の娘という設定

本学のスローガンである「ひとりを看る目、その目を世界へ」とはどのような意味を持つのか、学生ひとりひとりが考えるきっかけとなるコーナーです。

今号のテーマ

## さまざまな分野の第一線で活躍する卒業生をご紹介します

**濱田 佳奈**さん(福岡赤十字病院、2017年度卒業)

看護師

「患者さんがその人らしく過ごせるように私たちができる事」

私は福岡赤十字病院の血液腫瘍内科病棟で勤務しています。白血病をはじめとした様々な血液疾患を有する患者さんとの関わりを通して、長期的に疾患と向き合いながら治療する患者さんを全人的に捉えていく重要性を日々感じています。

大学4年間は講義に加え演習や実習、日々のレポートなど、臨床現場において基礎となるアセスメント力を学ぶことができました。

今後も患者さんのニーズを把握し個別性のある看護を行っていきたいと思っています。



**森 明日香**さん(福岡赤十字病院、2017年度卒業/2019年度大学院修了)

助産師

「女性の一生を支える助産師に」

私は大学卒業後、助産教育コースに進学しました。大学院では、年齢や経歴の異なる同級生の様々な考えに触れ多くの刺激を受けながら、プレゼンや討議を通して自身の思考過程を言語化し発信する能力を養うことができました。

現在、福岡赤十字病院の産婦人科病棟に勤務し、正常からハイリスクなお産にかかわらせていただいています。また、婦人科病棟も併設していることから妊娠出産目的以外の患者さんにもかわりケアを行っています。今後も自己研鑽に努め女性の一生を支えることができる助産師に成長していきたいと思えます。



**緒方 千秋**さん(熊本県天草保健所、2020年度卒業)

保健師

「住民の皆さんが安心して地域で過ごせるように」

私は大学卒業後すぐに熊本県へ入庁しました。現在、天草保健所で指定難病事業を担当しています。臨床経験なしで保健師として働くことに不安もありましたが、職場の方々のサポートはもちろんのこと、大学時代のさまざまな経験が支えになっています。大学4年間で「多職種連携の大切さ」を学んだことはこれまでの担当業務に繋がっています。長期的に疾患と向き合いながら、地域で暮らす方が安心して暮らせるよう、多職種連携を図りながら支援していくことの重要性を日々感じています。

コロナ禍で、思うような支援も難しい状況ではありますが、今後も「住民の皆さんに寄り添った保健師」として日々、自己研鑽に努めていきたいと思えます。



### 卒業生対象セミナー開催のご案内

#### フィジカルアセスメント研修

『今さら聞けない!フィジカルアセスメントセミナー ~フィジカルアセスメント、自信を持ってできていますか?~』

大学1年生の時にフィジカルアセスメントについて学びましたが、臨床現場で患者と関わる中で、フィジカルアセスメントをしっかりと活用できていますか?私たちがフィジカルアセスメントの知識と技術のブラッシュアップをお手伝いします。

開催日時:2022年12月15日(木) 13:30~16:00

開催場所:日本赤十字九州国際看護大学 シミュレーション室

講師:苑田 裕樹氏 令和健康科学大学 講師

木村 涼平氏 日本赤十字九州国際看護大学 講師

小手川 良江氏 日本赤十字九州国際看護大学 講師

対象者:本学卒業生(経験年数等は問いません)

定員:15名(先着順)

申込方法:下記よりお申込みください

<https://forms.office.com/r/6QQFnZCdXS>



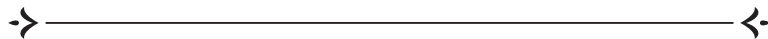


広報誌「一碧」はこれまで、年2回発行し、皆さまにお届けして参りました。  
本学では、本号紙面でもご紹介しましたとおり、DXを推進しデジタル化を進めております。  
広報誌「一碧」につきましても、現在もホームページで公開しておりますように、web上で  
ご覧いただく方法に移行していくことを検討しております。  
つきましては、皆さまのご意見を参考に今後の取り組みを進めていきたいと思っておりますので、  
恐れ入りますが、下記よりアンケートにお答えいただけますようお願い申し上げます。

(回答受付期間:2022年12月末迄)



<https://forms.office.com/r/LYFZFJSHFB>



大学を囲む、宗像の海・山・空をイメージし、水と空が一続きになって  
一様に青々としていることを表す四字熟語「水天一碧」から名付けら  
れました。

「碧」は、同窓会「遥碧会」の字のひとつでもあり、本紙を通じて、学生  
・保護者・OG・OBの皆様と大学とが一続きにつながって欲しいとの  
願いが込められています。

題字: 吉田 歩さん (2014年度 看護学部卒業生) / 福岡県・柏陵高校出身

## 日本赤十字九州国際看護大学

Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing & Graduate School

発行: 日本赤十字九州国際看護大学

〒811-4157 福岡県宗像市アステイ1丁目1番地

Tel.0940-35-7001 Fax.0940-35-7021

<https://www.jrckicn.ac.jp/>



Instagram公式アカウント

### 寄付のお願い

本学では、個人・法人の方からのご寄付を募集しています。寄付  
金には、一定の税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは、本  
学ホームページでご確認をお願いいたします。